

風の松原・ 檜山追分の里 コース

大山家住宅

多宝院

多賀谷居館跡

浄明寺山門

檜山追分
旧羽州街道
松並木

料亭金勇

風の松原



大山家住宅 [国重要文化財]

八竜町飯塚にある大山家は、藩政期に村役を務めた家柄です。住宅は、馬屋を主屋から突出させた中門造で、棟は雨漏りを防ぐために草を生やした芝棟となっています。県北地方における幕末期大規模上層農家の姿を今に伝える建築です。



多宝院 [県有形文化財]

多宝院は、檜山所預を務めた多賀谷氏の菩提寺で、多賀谷氏とともに下総国下妻(現・茨城県)から檜山に移りました。1771年建立の本堂は大規模な方丈形式で、特に須弥壇や細部の装飾、ウグイス張りの廊下に見どころがあります。



多賀谷居館跡

佐竹氏の家臣として江戸時代にこの地を治めた、多賀谷氏の居館跡です。1620年に檜山城が破却されたあと、旧羽州街道西側の台地上に居館がつくられ、周囲に家臣団の住居が建ち並ぶ町場が形成されました。



浄明寺山門 [県有形文化財]

浄明寺は、室町時代に創建された安東氏ゆかりの寺です。山門は、安東氏の居城・檜山城から移築された「城下がりの門」といわれていましたが、解体修理の際に江戸時代初期の建立が確認されました。年代が明らかでない薬医門としては県内最古の建築です。



檜山追分旧羽州街道松並木 [県指定史跡]

旧羽州街道と能代道の分岐点にあることから、追分の松並木ともいわれています。現在、13本の黒松が残っており、もっとも大きいものは樹齢約200年と推定されています。



料亭金勇 [国登録有形文化財]

「東洋一の木都」といわれた能代市の繁栄を現在に伝える、天然秋田杉をふんだんに使った豪華な建造物です。平成10年に国の登録有形文化財に登録されました。



風の松原

海風による飛砂を防ぐために江戸時代から植栽された、南北14km、東西1kmと日本最大規模の砂防林です。市民の憩いの場としても親しまれています。

